

北海道美幌高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和5年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1) 農業教育を通して将来地域で活躍できる産業人の育成をする。 (2) 農業の基礎基本、そして新たな技術を学ばせ、オホーツク地域の農業を担う人材を育成する。	みらい留学により、道外生徒募集の成果が昨年よりも出てきている。各教科活動、農業クラブ活動等を通して実現できていた。	道外生徒募集は順調に増加しているが、近隣生徒募集につなげられていないのが課題。今後も継続と各授業の特色を出せるよう工夫をしていく。	4
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1) 世界の農業にも目を向け、国際社会の中で活躍しうる人材育成をする。 (2) 海外農業研修、農業を通じた国際交流の推進を図る。	「J-GAP」の継続ができた。	GAP認証の維持。今後さらなる国際社会を意識した取組の実施。国際交流など模索する必要がある。	3
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1) 新しい農業技術を積極的に取り入れるなど即戦力となる農業者育成をする。 (2) 関連団体、研究機関と連携し地域に貢献できるプロジェクト学習を行う。	農場HACCPについて継続して取り組んだ。地域と密接に連携したプロジェクト活動が実施できた。	今後の継続。HACCPなどの認証取得を目指す。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1) 地域農業理解に向けた研修や講演会を行う。 (2) 「地域農業の縮図」としての学校農場を適切に運営し、地域理解を深めさせる。	視察研修を効果的に実施できた。	地域農業の実態、課題を把握した農場運営の実施。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) 環境保全型農業を推進し、持続可能な農業体系を具現化する。 (2) 地域の未利用資源、副産物等の有効利用、有害生物に関する研究を深め、安定的な農業生産体系確立を目指す。	堆肥の有効活用や循環型農業の実践ができた。副産物、有害生物活用につながるプロジェクト活動ができた。	環境を意識した農場運営、プロジェクト学習の継続。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) 豊富なオホーツク資源の栽培を通して地域農業の理解を深める。 (2) 地域資源の活用方法について食品加工等を通して学び、将来のオホーツク産業を担う人材を育てる。	地域農産物を意識した農産物生産や地域資源活用を考えた加工品製造ができた。	取組の継続。地域資源についての研修を深める。	4
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1) 学校農場を活用したスマート農業を推進する。 (2) ICTを用いて質の高い農業教育を行う。	学科転換完成に向けて準備を進めることが出来た。	学科転換に向けた予算付けが大幅に遅れ、整備が未実施。	2
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1) 防災教育の推進を図る。 (2) 地域防災における学校の役割を認識し、町の災害対策と併せて取り組みを検討する。	地震停電等における農場の在り方を考えることができた。準備を整えることが出来た。組織的に動くことができた。老木の伐倒により、整備が図られた。	地域における役割や連携を今後考えていく必要がある。	5